

# 「環境未来都市」構想推進国際フォーラム in ポートランド の開催結果について

内閣府 地方創生推進室

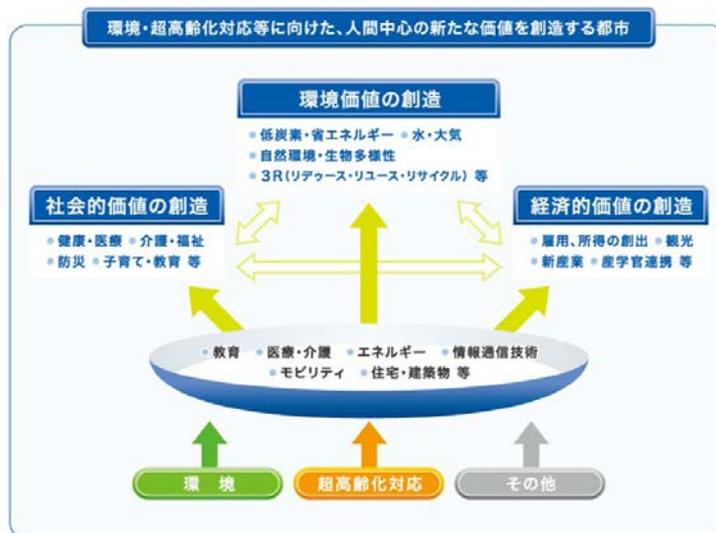
## 1. 「環境未来都市」構想の趣旨

「環境未来都市」構想は、限られた数の特定の都市を環境未来都市として選定し、21世紀の人類共通の課題である環境や超高齢化対応などに関して、技術・社会経済システム・サービス・ビジネスモデル・まちづくりにおいて、世界に類のない成功事例を創出するとともに、それを国内外に普及展開することで、需要拡大、雇用創出等を実現し、究極的には、我が国全体の持続可能な経済社会の実現を目指すものである。



## 2. 「環境未来都市」構想の基本コンセプト

環境未来都市は、「環境・超高齢化対応等に向けた、人間中心の新たな価値を創造する都市」の実現に向けて、我が国及び世界が直面する地球温暖化、資源・エネルギー制約、超高齢化対応等の諸課題を、持続可能な社会経済システムを構築しつつ、また社会的連帯感の回復を図りながら解決し、環境、社会、経済という3つの価値を創造しつづける「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力あるまち」を目指す。



### 3. 環境未来都市・環境モデル都市の選定

平成 23 年 12 月、全国から 11 の環境未来都市（うち被災地域 6 地域）を選定した。

岩手県釜石市(人口:3.8万人)  
 岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町(人口:合計6.7万人)  
 富山県富山市(人口:42.2万人)  
 福岡県北九州市(人口:97.2万人)  
 神奈川県横浜市(人口:370万人)  
 北海道下川町(人口:3,613人)  
 宮城県東松島市(人口:4.0万人)  
 宮城県岩沼市(人口:4.4万人)  
 福島県新地町(人口:8,022人)  
 福島県南相馬市(居住人口:4.6万人)  
 千葉県柏市(人口:40.5万人)

**【北海道下川町】 人が輝く森林未来都市しもかわ**

- 豊富な森林資源から最大限に収益を得続ける自立型森林総合産業を創出
- 森林バイオマスを中心とした再生可能エネルギーによる完全自給と域外燃料供給を実現
- 「森林未来都市」モデルの政策・事業パッケージをアジア各国の小規模山村自治体に移出展開を目指す。

**【神奈川県横浜市】 OPENYOKOHAMA**  
 ~ひとものことがながい うこま 時代に先駆ける価値を生み出すみらい~

- 370万人の市民力、開港(1859年)という歴史的背景、環境モデル都市等の環境・エネルギーに関する知の蓄積を活用
- 横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)の推進
- NPOや支援ネットワークの充実を通じた地域の支え合い、住宅への高齢者生活支援機能の導入や大規模団地再生

**【千葉県柏市等】** 柏の葉キャンパス  
 「公民学連携による自律した都市経営」

- 大学等の「最先端の知」を活用
- 地域エネルギーマネジメントシステムの高度化等によるスマートシティ化
- 高齢者の「市民健康サポーター」としての起用
- 大学の基礎研究と事業化との間の隙間を埋める「ギャップファンド」の創設・活用等によるベンチャー支援

**【富山県富山市】** コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築  
 ~ソーシャルキャピタルあふれる協和共生が加速する都市を目指して~

- LRTを中心とした公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり
- 多様な世代間の交流による人と人との触れ合い豊かな地域社会の形成
- 医薬品関連産業が集積した「薬都とやま」と再生可能エネルギーを活用した産業振興

**【福岡県北九州市】 北九州市環境未来都市**

- 公害克服と環境国際協力の経験及びものづくりの技術、高齢化対策にいち早く取り組んできた実績を基に取組を推進
- 都市環境インフラの海外展開、官民連携による海外水ビジネスの展開
- 地域連携による健康の維持・向上、住民主体の健康づくり
- スマートコミュニティ創造事業の成果を活用した、釜石市での復興支援事業

**〈被災地域〉**

**【岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町等】 気仙広域環境未来都市**

- 蓄電設備付帯メガソーラー発電所を分散して設置するなど、地域において自ら生み出し、安定的に電力を供給するエネルギー社会の構築
- 暮らしに必要な都市機能が集約された高齢者にやさしいまちづくりの推進
- 先端技術を活用した農林水産業の振興とエネルギー関連企業の誘致などによる新産業の振興

**【岩手県釜石市】 釜石市環境未来都市構想**

- エネルギーの地産地消、多様なエネルギーを活かした産業創出等を通じた「低炭素・省エネ・省資源による循環型社会かまいたし」の実現
- 高齢者が「生きがい」を持てるまちづくりの推進等を通じた「産業福祉都市かまいたし」の構築

**【宮城県岩沼市】 愛と希望の復興**

- 震災がれきを活用した千年希望の丘の造成による自然環境との調和
- メガソーラー事業を中心としたスマートグリッドの取組
- 医療クラウドを利用した健康管理や医療連携、高度医療技術の研究・開発拠点の整備

東日本大震災からの復興  
**【宮城県東松島市】** ~あの日を忘れずともに未来へ 東松島一新~

- サステナブルな成長力と安心・安全な生活都市を目指す。
- 再生可能エネルギーによる自立分散型電源の構築、建築物の低炭素化、EVの普及
- CASBEE健康チェックリストを活用した健康住宅の推進

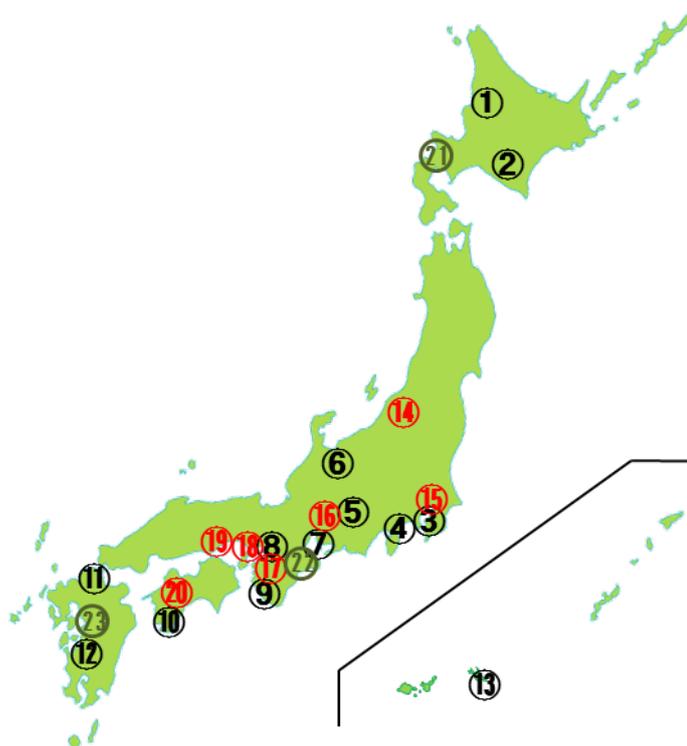
**【福島県南相馬市】 次世代に繋ぐ循環型都市 南相馬**

- 再生可能エネルギーの大量導入と電力消費のスマート化による「エネルギー循環」
- 複数世代が同じ共同体に暮らすことによる「世代循環」
- 一次産業を核として、加工、流通経路も独自に確保する「循環型地域産業」

**【福島県新地町】** 「やっぱり新地がいいね」  
 ~環境と暮らしの未来(希望)が見えるまち~

- 地域特性を活かした多様なエネルギー供給による「スマート・ハイブリッド・ネットワーク」の構築
- 多様な再生可能エネルギーを活用した新たな産業の創出
- 超高齢化に対応した地域モビリティシステムの構築
- 高齢者のQOL向上に資する多様な地域情報サービスの提供

平成 20 年度に 13 都市、平成 24 年度に 7 都市、平成 25 年度に 3 都市の合計 23 の環境モデル都市を選定した。



**【平成20年度選定都市】**

No.	市区町名	取組概要
①	下川町 (北海道)	北の森林共生低炭素モデル社会・下川
②	帯広市 (北海道)	田園環境モデル都市・おひひろ
③	千代田区 (東京都)	省エネ型都市づくり、エネルギー効率向上
④	横浜市 (神奈川県)	横浜スマートシティプロジェクトの展開
⑤	飯田市 (長野県)	市民参加による自然エネルギー導入、低炭素街づくり
⑥	富山市 (富山県)	富山市コンパクトシティ戦略によるCO2削減計画
⑦	豊田市 (愛知県)	次世代エネルギーとモビリティを活用した低炭素まちづくり
⑧	京都市 (京都府)	人が主役の魅力あるまちづくり、「地域力」を活かした低炭素化活動
⑨	堺市 (大阪府)	「快適な暮らし」と「まちの賑わい」が持続する低炭素都市
⑩	梶原町 (高知県)	木質バイオマス地域循環モデル事業
⑪	北九州市 (福岡県)	アジアの環境フロンティア都市・北九州市
⑫	水俣市 (熊本県)	環境と経済の調和した持続可能な小規模自治体モデルの提案
⑬	宮古島市 (沖縄県)	島嶼型低炭素社会システム「エコアイランド」宮古島

**【平成24年度選定都市】**

No.	市区町名	取組概要
⑭	新潟市 (新潟県)	「田園型環境都市いしがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～
⑮	つくば市 (茨城県)	つくば環境スタイル“SMILE”～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～
⑯	御嵩町 (岐阜県)	地域資源(森林、公共交通、再生可能エネルギー等)を活かした低炭素コミュニティ「みたけ」の実現
⑰	尼崎市 (兵庫県)	「ECO未来都市あまがさき」へのチャレンジ
⑱	神戸市 (兵庫県)	神戸市環境モデル都市
⑲	西栗倉村 (岡山県)	「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造
⑳	松山市 (愛媛県)	環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」

**【平成25年度選定都市】**

No.	市区町名	取組概要
㉑	ニセコ町 (北海道)	国際環境リゾート都市・ニセコ スマートチャレンジ86
㉒	生駒市 (奈良県)	日本一環境にやさしく住みやすいまち「いこま」～市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市～
㉓	小国町 (熊本県)	地熱とバイオマスを活かした農林業タウン構想

#### 4. プログラム

9:00～9:15	○挨拶 主催者 内閣府地方創生推進室 室長代理 川上 尚貴 氏 開催地代表 ポートランド市長 チャーリー・ヘイルズ 氏 来賓 アメリカ連邦政府住宅・都市開発省 ポートランド・フィールド・オフィス ディレクター マーガレット・サラザール 氏
9:15～9:45	○基調講演 ・「環境未来都市」構想について 東京大学名誉教授 (一財) 建築環境・省エネルギー機構 理事長 村上 周三 氏
9:45～10:30	○事例紹介 (ポートランド市) ・TriMet エージェンシー・アーキテクト ロバート・ヘイスティングス 氏 ・PLACE プリンシパル ゼリカ・キャロル・カゲズ 氏 ・Puttman Infrastructure, Inc. プレジデント トム・パットマン 氏
10:30～11:00	休憩
11:00～12:15	○事例紹介 (環境未来都市・環境モデル都市) ・富山市長 森 雅志 氏 ・下川町長 谷 一之 氏 ・東松島市 復興政策課長 高橋 宗也 氏 ・御嵩町長 渡邊 公夫 氏 ・小国町長 北里 耕亮 氏
12:15～13:30	○ランチョンプレゼンテーション ULI グローバル CEO パトリック・L・フィリップス 氏
13:30～15:30	○プレナリーセッション ・地方創生に向けた『まちづくり』 1、プレゼンテーション ・柏市長 秋山 浩保 氏 ・横浜市 環境未来都市推進担当理事 信時 正人 氏 ・ポートランド市 企画・サステイナビリティ局 政策・研究・イノベーションマネージャー マイケル・アームストロング 氏 2、ディスカッション 【モデレーター】 ポートランド市開発局 国際事業開発オフィサー 山崎 満広 氏 【パネリスト】 ・ULI ジャパン エグゼクティブディレクター J・マイケル・オーエン 氏 ・柏市長 秋山浩保 氏 ・横浜市 環境未来都市推進担当理事 信時 正人 氏 ・ZGF Architects アソシエート・パートナー チャールズ・ケリー 氏 ・ポートランド市開発局 セントラルシティマネージャー リサ・アブアフ 氏 ・Pearl District Neighborhood Association ヴァイス・プレジデント ケイト・ワシントン 氏
15:30～16:00	休憩
16:00～16:30	○特別講演 ・メトロ政府代表 カウンシル・プレジデント トム・ヒューズ 氏 ○閉会挨拶 ・内閣府地方創生推進室 室長代理 川上 尚貴 氏

## 5. 開催概要

「環境未来都市」構想の海外における普及展開を目的に、「地方創生による『まちづくり』」をテーマとして、2月9日に米国オレゴン州のポートランド市で、国際フォーラムを開催した。

今回のフォーラムでは、地方創生に向けたまちづくりに関する意見交換を行い、今後の持続可能なまちづくり・地域連携に係る政策・立案に役立てるため、プレゼンテーションやパネルディスカッションを実施した。

### ○挨拶

#### 主催者挨拶：

##### 内閣府地方創生推進室室長代理 川上尚貴氏

主催者を代表して川上氏が挨拶し、「環境未来都市」構想とフォーラムの目的について説明を行い、目指すべき方向性を表した言葉として、「世界で共有する未来」、すなわち「Globally shared future」をいう言葉を提唱し、分かち合うことを提案した。



川上尚貴氏

#### 開催地挨拶：

##### ポートランド市長 チャーリー・ヘイルズ氏

ポートランド市・オレゴン州と日本とは、長期にわたる特別な友情関係があり、ポートランドの持続可能性を支えるリーダーシップについて、本フォーラムで有意義な知見の共有ができることに大いに期待したいとの挨拶があった。



チャーリー・ヘイルズ氏

#### 来賓挨拶：

##### 米国連邦政府住宅都市開発省 ポートランド・ワールド・オフィス ディレクター マーガレット・サラザール氏

経済的に落ち込んだ近隣区域を改善するための補助金「チョイスネイバーフッド」が、更なる投資を誘引しコミュニティを作り上げる呼び水になっていることや、犯罪予防、雇用創出や職のアクセス改善につながりつつあること、また高齢化が進む米国において同省が高齢者にも適切な住環境を提供するために努力していることの紹介があった。



マーガレット・サラザール氏

## ○基調講演

### (一財) 建築環境・省エネルギー機構理事長 村上周三氏

内閣府の環境未来都市推進委員会の座長でもある村上氏が、「環境未来都市」構想について、持続可能な社会に向けたトランジション・マネジメントの実践フィールドという観点から、「環境未来都市」構想の全体像について説明した。



村上周三氏

## ○ポートランドの事例紹介

### TriMet エージェンシー・アーキテクト ロバート・ヘイスティングス氏

水利や地形や地質といった自然条件がポートランドの人々のライフスタイルや文化に大きな影響を与えていることや、過去から現在に至る、自然やまちに関する人々の考え方の変遷、人々のまちづくりへの係り方、イノベーションや創意工夫の仕方など、ポートランドにおけるまちづくりの全体像と特徴についての紹介があった。



ロバート・ヘイスティングス氏

### PLACE パートナー／アーバン・デザイナー ゼリカ・キャロル・カケズ氏

ポートランドのまちづくりにおけるプレースメイキングを中心に発表。人々がそれぞれ自分の役割を持ち、公共の場を利用する、使う、そこで思い出をつくるといった、プレースメイキングの重要性や、自然や水など地域にあるリソースを活用して、経済的なメリットを生み出し、まちを活性化させることなどについて説明があった。



ゼリカ・キャロル・カケズ氏

## ○日本の事例紹介

### 「今日の環境未来都市」 富山市長 森雅志氏

公共交通の活性化と公共交通沿線への居住誘導を中心としたコンパクトシティへの取組成果や、地域のビジネスの育成と新しい産業の誘致による経済レジリエンスの強化に向けた取組、環境の持続可能に向けた取組等についての紹介があった。



森雅志氏

### 「環境未来都市「下川町」～森林活用小規模自治体モデルの構築～」 下川町長 谷 一之氏

地域の森林資源によるエコハウス技術を活用した公共建築物や戸建て住宅の普及、木質バイオマスエネルギーの利用、森林バイオマスを活用したカーボンオフセット等を紹介。また、超高齢化に対応するエネルギー自給型の集住化エリアなどの取組によって、地域資源を活用した産業を創造し、次世代へ向けた持続可能な集落をデザインする構想などが示された。



谷 一之氏

### 「東日本大震災からの復興のまちづくり」 東松島市復興政策課長 高橋宗也氏

東日本大震災の被害に対して単なる復興、復旧だけではなく、「環境未来都市」構想への取組によって少子・高齢化、エネルギー、環境の問題など、日本で課題となっている問題を復興とともに解決しようという試みや、そのために市と公的な団体、民間会社が加盟して立ち上げた東松島市未来都市機構などについての紹介があった。



高橋宗也氏

### 「この環境を未来へ」 御嵩町長 渡邊公男氏

産業廃棄物処分場建設に関して行われた全国初の住民投票による、住民の環境意識の高まりや、環境モデル都市へのチャレンジなどの経緯が説明された。また、山林吸収や、公共交通機関の活用による自家用車利用の減少によるCO<sub>2</sub>削減の取組、再生可能エネルギーをつくり出す取組等の紹介があった。



渡邊公夫氏

### 「地域資源の活用によるまちづくり～地熱とバイオマスを活かした農林業タウン構想～」

#### 小国町長 北里耕亮氏

地熱とバイオマスを生かした農林業タウン構想に関して、豊富な森林資源を活用した大規模木造建築物や、地熱の面的な活用の取組について説明があり、また、移住者の新しい考えやアイデアを活用した商品開発や、木育による子供の情操教育など、地域の活性化の様子が紹介された。



北里耕亮氏

## ○ランチョン・プレゼンテーション

### 「住民によるまちづくりを考える」

#### ULI グローバルCEO パトリック・L・フィリップス氏

まちづくりにおける3つのキーワードをもとに説明があった。

1つ目のキーワードは、「密集度と住みやすさ」。密集度がある場所は、特徴のあることであり、魅力があり、物事が進む。密集度が高いことはいいことであるが、住民から見ると密集度が高いことが悪いことと受け取られることが多く、密集度が高いことと住みやすさを両立する、良い密集度というものをどのように考えるかについて香港、ロンドン、ビーバートン、ニューヨーク等の事例を通じて説明があった。

2つ目のキーワードは、「テクノロジーと市民参加」。公的なサービスの提供に関するテクノロジーの活用と、市民参加におけるテクノロジーの活用に関して、マッピングテクノロジーを用いた警察のシステムによる都市部の犯罪減少や、モバイルテクノロジーによるパブリックなリソースに対する人々のコネクティビティ向上、ロケーションとマッピングソフトウェア、IoTテクノロジーによるシェアコミュニティ、シェアエコノミーの進化等が、まちづくりに与える影響等について説明があった。

3つ目のキーワードは、「パートナーシップとネットワーク」。ULIが市町村レベルの首長とのネットワークづくりのグローバルな活動について紹介があった。



パトリック・L・フィリップス氏

## ○プレナリーセッション パート1

プレナリーセッションは、パート1とパート2の2部構成で行われた。まず、パート1では、日本の2都市（柏市、横浜市）とポートランド市がプレゼンテーションを行った。



左から、アームストロング氏、信時氏、秋山氏

### 「世界の未来像」をつくる街 柏の葉スマートシティ」

#### 柏市長 秋山浩保氏

柏の葉が、ポートランドのまちづくりを取り込んでいること、産官学が一緒になってゼロからつくった新しい街であること、さらに、新しい住民の方との関係を深め、まちづくりに対する意識を高めるためのコミュニティアクティビティーズの仕掛けなどについての説明があった。

### 「環境未来都市・横浜での市民と協働したまちづくり」

#### 横浜市 温暖化対策統括本部環境未来都市推進担当理事 信時正人氏

横浜市が、急激な都市化による都市問題に対して、六大事業と呼ばれる総合的な施策を展開し、課題克服に成功してきたといった歴史的背景や、行政と横浜市民と事業者が一丸となって市内のごみ排出量を約40%削減した事例を通じて、横浜市民の公共意識の高さなどの説明が

あった。また、「横浜スマートシティプロジェクト」における市民との協働によるHEMS導入などの展開についても説明があった。

### ポートランド市企画・サステナビリティ局 政策・研究・イノベーションマネージャー マイケル・アームストロング氏

ポートランドのまちづくりに関して、地理、地形というものが重要な役割を果たしているということに加え、住民参加、コミュニティー・インボルメントの中から、創意工夫していくことの重要性が指摘され、そのための具体的な取り組み方として、ビジョンの共有の仕方や、意見の集め方などについて、気候変動対策計画の事例などを通じての説明があった。

## ○プレナリーセッション パート2

### ・ファシリテータ

PDC国際事業開発オフィサー 山崎満広氏

### ・パネリスト

柏市長 秋山浩保氏

横浜市理事 信時正人氏

ULIジャパン(有識者) J. マイケル・オーエン氏

ZGF Architectsアソシエート・パートナー チャールズ・ケリー氏

PDCセントラルシティマネージャー リサ・アブアフ氏

Pearl District Neighborhood Associationヴァイス・プレジデント ケイト・ワシントン氏

プレナリーセッションのパート2では、パート1のプレゼンテーションを踏まえて、6名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。パブリック・エンゲージメントや市民参加に関して事例の紹介を交えながら活発な意見交換が展開され、最後にファシリテータから、次のようなまとめが行われた。

- ・まちづくりのプロジェクトを進める上で、どのようなリソースがあるのか、文化や言葉というところで、それをどういうふうによく入れていくかということが大事なことである。
- ・世代間の中でお互いにそれをトランゼーションする何かが必要である。
- ・パブリック・エンゲージメントということを考えたときには、コミュニケーションというものが常に中核的な問題である。
- ・日本、ポートランドどちらの文化も何らかの形で穴がある。その穴も一つではなく幾つもある。これらを埋めていくために、お互いの側で努力していかなければならない。
- ・このような穴を埋めるために何が穴なのかということをも自分たちで見分けて、それに対する対策を自分たちで考えていくということが必要である。



左から、ワシントン氏、アブアフ氏、ケリー氏、オーエン氏、信時氏、秋山氏

## ○特別講演

### メトロ政府カウンスル・プレジデント

#### トム・ヒューズ氏

本フォーラムでの議論を通じて、「コラボレーション」や「共同」という言葉が成功の鍵を握っており、これがあるからポートランドは成功したのだと考えているとの見解が示された。

また、ポートランド全体、ポートランド市近郊なども合わせて160万人という人口を抱えた地域に対して責任を持っている地域政府メトロ政府があることが、本当の意味で真にユニークであり、ポートランド特有であること、そして成功の鍵であるかということ、いくつかの事例を参考に説明された。さらに官民連携のグレーター・ポートランド・インクという会社を作ることや、PDC・管轄内の地方政府との協働によって課題の解決・調整や地域の発展に取り組むことの重要性が示された。



トム・ヒューズ氏

## ○閉会挨拶

### 内閣府地方創生推進室室長代理

#### 川上尚貴氏

閉会に際し、本フォーラム全体の振り返りとともに、本フォーラムで得られましたまちづくりの成功事例についての共通認識を元に、日米両国、そして人類共通の課題の解決に向けた取組をいっそう推進していくことが重要であり、世界共有の未来、すなわち「Globally shared future」につながるものであることが示された。



川上尚貴氏